

令和４年度第１回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：令和４年７月２０日（水） 午後１時～午後３時３０分

■開催場所：京都市役所本庁舎４階 正庁の間

■議題：

- （１）市民参加推進フォーラムの令和４年度の進め方について
- （２）市民公募委員サロンの開催について

■報告事項：

- （１）市民協働担当の事業紹介（まちづくりインターン）
- （２）新たに設置された附属機関等に係る協議結果及び市民参加に関係する新しい事業等

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員１３名

（荒木委員、安委員、乾委員、今井委員、金田委員、篠原委員、白水委員、並木委員、長谷川委員、原田委員、村田委員、森川委員、森実委員）

■傍聴者：なし

■特記事項：

動画共有サイト YouTube（ユーチューブ）を利用し、後日、音声配信を実施する。
Zoom を用いた Web 会議と併用開催した。

【議事内容】

１ 開 会

２ 委員紹介・座長の互選等・座長の挨拶

<事務局>

- ・議事に先立ち、委員の交代についてご報告する。令和２年度及び３年度の座長をお務めいただいた内田委員、公募委員の木村委員、嶋倉委員の３名が退任され、白水委員、公募委員の今井委員、原田委員の３名を新たにお迎えしている。
- ・それでは、皆様に簡単に自己紹介をお願いしたい。

（以下、委員及び事務局自己紹介 略）

・座長の内田委員の退任に伴い、新たな座長の選出に移る。座長の選出については、京都市市民参加推進条例の施行規則第9条第2項により「委員の互選」で行う。座長の立候補・推薦などあればお願いしたい。

<金田委員>

・昨年度、副座長として、また裾野拡大検討部会の部会長として議論をまとめていただき、委員の信頼も厚い森川委員が適任だと思う。

<事務局>

・森川委員に座長に就任いただくということで、異議がなければ、森川委員をお願いしたい。

<森川委員>

・承知した。

<事務局>

・続いて、森川委員の座長就任に伴い、副座長がひとつ空席となったため、副座長の選出を行う。京都市市民参加推進条例施行規則第9条第2項に、「副座長は委員のうちから座長が指名する」こととなっている。森川座長にご指名をお願いします。

<森川委員>

・市民公募委員サロンにおいて中心的役割を果たしていただくなど、皆さんの意見を的確に受け止めていただける篠原委員に副座長をお願いしたい。

<篠原委員>

・承知した。

<事務局>

・それでは、この後の進行については森川座長をお願いします。

<森川座長>

・本日の議題及び報告の流れについて、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

(議題の説明、資料確認、時間配分について説明)

3 議題

議題（１）市民参加推進フォーラムの令和４年度の進め方について

<森川座長>

・それでは、早速議題に入る。「市民参加推進フォーラムの令和４年度の進め方」について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

（資料１「令和４年度フォーラム活動予定」説明）

<森川座長>

・補足となるが、昨年度、「市民参加の裾野拡大検討部会」及び「市民参加推進力指標検討部会の」２つに分かれて議論・検討を進めてきた。この２つを今年度も課題と位置付けて引き続き議論する方向である。事務局の説明を受けて、質問・意見等はあるか。

<原田委員>

・今年度から委員として参加するため、質問したい。昨年度、２つの部会で議論されたテーマについて、実施する内容は決定事項か。

<森川座長>

・２つのテーマを引き続き進めることは決定事項である。具体的な内容については、後ほど事務局から説明がある。

<乾副座長>

・市民参加推進フォーラムの取組について、補足させていただく。会議としては４回を予定されているが、市民参加推進フォーラムとして、別途、自主勉強会を実施することもある。

<森実委員>

・市民参加推進フォーラムの役割は、条例に基づいて市民参加推進計画の進捗管理をすることだと認識している。次の計画の見直しに向け、フォーラムの取組として、年度ごとの取組目標が必要ではないか。昨年度、１３施策の項目に沿って、どのように進捗管理をするかのスケジュールが記載された資料があったが、今年度もそれがある方が分かりやすいのではないか。

<事務局>

- ・昨年度の第1回会議で、たしかにそのような資料を配布した。昨年度、市民参加推進力検討部会で議論された指標が固まり次第、スケジュールを組み直し、その指標を活用して進捗管理をしていきたい。
- ・次の計画は、令和8年度からとなる。

<森川座長>

- ・次に、資料2について事務局から説明をお願いする。

<事務局>

(資料2「市民参加の裾野拡大資料」説明)

<森川座長>

- ・ただいまの事務局の説明を受けて、ご議論をお願いする。

<原田委員>

- ・この取組は、最終的に高校生がどのような状態になることを目指しているのか。

<事務局>

- ・市民参加について知らない高校生に、まずはそうしたことがあること知ってもらうことを目的としている。そうすることによって、結果的に一部の人にはなるだろうが、将来の市民参加につながることを目指している。

<乾副座長>

- ・シチズンシップ教育として、どのように選挙の方法や情報収集の仕方を高校生に教えるのか、高校教育だけで教えきれのかという問題がある。市政参加できる高校生を1人でも増やすことは重要だと思う。

<原田委員>

- ・理想の状態はよく理解できたが、解像度が粗いように感じる。一部の高校生に参加してもらえる状態だけでいいのか、効果の出る取組となるように具体的に検討していく必要があると思う。

<乾副座長>

・まさに、これから議論していきたい部分である。昨年度は取組のターゲットを絞り込む議論であったため、それを踏まえて、今年度はどのような目標と評価指標で進めていくのか検討する必要がある。今後の議論でもご意見いただきたい。

<原田委員>

・今年度の具体的な事業の進め方等は、いつ頃提示されるのか。

<森川座長>

・資料によると、今年度の第3回会議での確定を目指す予定である。

<原田委員>

・高校の先生にヒアリング等をするようになる場合、一緒に行くことは可能か。

<森川座長>

・そのような機会があれば可能だと思われる。

<白水委員>

・これまでの高校連携授業の経験から、コーディネート部分が重要であると感じる。高校それぞれの特色・強みがあるため、それを活かしたアウトプットの設計にするなど、ただ市政参加を促すだけではなく、高校生にとっての学びやどのように活かすのかという視点も必要である。

<乾副座長>

・高校側の目線から言うと、高校としてどのような生徒を育てたいかという方針も持っているはずである。

・一方で、市民参加推進フォーラムとしての目標もあり、どのようにシンクロしていくかである。上手く連携して良い公・学の連携にする必要がある。現場の先生の声も聞きつつ、試行的に授業を実施し、上手くいけば活用していくという進め方が良いと思う。

<事務局>

・高校の特色も活かしつつ連携を進めていきたい。

<乾副座長>

・授業で活用できる制度等のリストを市立高校に配布すると書かれているが、府立高校にも声掛けし、希望があれば配布しても良いのではないか。

<事務局>

・まずは、昨年度ヒアリングを実施した市立高校から配布し、府立高校にも広げられそうか検討する。

<森川座長>

・次に、資料3について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

(資料3「市民参加推進力」指標について説明)

<森川座長>

・ただいまの事務局の説明を受けて、ご議論をお願いします。今年度から参加された委員の方には、後日、事務局から案内する並木委員による解説動画もご覧いただきたい。

<並木委員>

・動画を視聴して不明点があれば、ご質問いただければと思う。

・指標の作成を通じて目指していることは、取組のゴールを明確にすることと、どれだけそこに近づいているかを振り返り、評価するための道具にすることである。

・昨年度、「まちの健康診断」と表現されていたが、まさにそのような状況が分かるのではないかと考えている。

・市民参加推進計画自体の評価も進めていきたいと思うが、「市民参加の裾野拡大」の取組等、様々な部分でも活用したい。

<乾副座長>

・昨年度、「まちの健康診断」という表現をした記憶がある。計画の13施策を実施したことで、まちの健康状態がどうなるかという部分を見たい。今回初めての試みでもあるため、指標を作ってみて実際に活用しながら修正することで精度が上がっていくものだと思う。指標を作って育てていくイメージで捉えていただきたい。

<原田委員>

・評価指標自体は形骸化しがちであると思うが、その対策は検討されているか。

<並木委員>

・指標はアリバイや言い訳に使われやすいが、対策として、指標を年度ごとに見直して修正することと、その施策の実施が本当に効果につながるかの両面からの見直しが必要である。

＜原田委員＞

・リスクマネジメントとして、常に指標を見直す姿勢であることをどこかに記載しておいた方が良いのではないか。

・PDCA サイクルは指標があるから回るのではない。目指すべきなのは、施策の本質的な良さであるため、「PDCA サイクルを回すため」というのはあまり書かない方が良いのではないか。

・資料に指標の評価対象について、情報公開が最初に記載されているが、それよりも市民の満足度の向上を入れるべきではないか。

＜乾副座長＞

・情報公開について、ローデータ（生データ）の解釈や分類の仕方は人それぞれである。そのため、様々な市民がローデータを使うことができ、それぞれが「まちの健康診断」をして、健康状態を判断できることが理想の状態である。都合の良い時だけデータを公開し、都合の悪い時は出さないというのは良くない状態であるため、その文脈から記載されているものである。

＜森実委員＞

・市民が自主的にデータにアクセスする機会はあまりないが、例えば保育料のような市民生活に身近な案件がある場合等、情報が必要な時に適切な情報にアクセスできる環境を整えることが大前提である。

＜原田委員＞

・ただ情報にアクセスできるだけで満足度が向上するとは思えない方が良くと思う。市民に使ってほしい情報が分かりやすく公開されていることが重要だと考えられる。

＜乾副座長＞

・情報を分かりやすく市民に出すことは重要だと思う。まずは、情報を公開することが大前提である。

・公開される情報がローデータばかりでは、市民が理解できるかという問題もあるため、指標を作って市民の理解度を評価する必要性も理解できる。

・つまり、情報公開をしつつ、その情報がどれだけ使われているか、理解されているかという側面を評価する必要があるというのが昨年度の議論だったと記憶している。

<並木委員>

・原田委員の疑問点については、理解度を測るという記載によって語弊が生じたかもしれない。市民参加推進計画が地域課題の解決の取組に市民に関わってもらうことを目的としている中で、事前にどのような地域課題があるか知るという場面と、推進計画の達成度を知るという場面の両方で情報公開が役に立つのではないか。

・課題を知ることが、市民参加のパフォーマンスにどれだけつながるかを測ることができるようにするという意味合いである。

<森川座長>

・並木委員の説明で、整理されてきた。ロジックモデルは実際に組んでみないと理解が難しいため、今年度は実際にロジックモデルを組む機会が欲しい。

<安委員>

・指標の考え方は難しいが、指標を活用した「健康診断」の結果を市民に公開していく認識か。

<乾副座長>

・それ以前に、計画を立てっぱなしで、指標もないまま評価するのは無責任だという前提があった。事業を始める前に、計画と目標だけではなく評価する軸である指標を作り、開示しようという考え方である。

<安委員>

・3つの指標をそれぞれ活用し、施策を評価していくという考え方で、今年度は指標を完成させるということか。

・市民参加推進計画の縦串と横串がよく理解できず、例えば「市民参加の裾野拡大」を具体的にどの指標で評価するのかという基準が難しく、どのようなロジックになるのか疑問である。

<乾副座長>

・想定であるが、全部のデータを取って見ていくのは難しいため、定点観測になると思う。

<森川座長>

・今年度、具体的に指標を作成してみないと、フォーラム委員が理解できていない状況で市民に向けて説明するのは難しいと思われる。

＜荒木委員＞

・フォーラム委員の中でも、指標についての認識が統一できていないので、次回のフォーラム会議までに具体的な指標の項目などを用意してもらえないか。

＜森川座長＞

・事務局と相談して、次回に向けて進めたい。

＜白水委員＞

・「市民参加」には様々なレベルがあると思うが、それも指標で図る対象となるのか。
・現在、市政に非参加の人がいるという前提で市民参加を推進するのであれば、非参加グループの人の市民モニターを用意し、参加が促進されたことを測るような方法もあるのではないか。

＜森川座長＞

・市民参加推進力指標という名称にしているため曖昧になるが、計画の施策ごとに指標を作っていくということで、事業によって参加の度合いの性質や目指すゴールが違おうと考えていただきたい。

＜村田委員＞

・市民参加推進力指標をこれから作っていく中で、他都市や海外などの指標の事例は調査されているか。

＜乾副座長＞

・ロジックモデルを使った国内の事例は事務局側で調べられていたが、指標全体についてはまだ実施されていない。

＜村田委員＞

・時間と労力がかかるが、事例を研究すると指標の妥当性の論証もできるため、先進事例も提示できれば良いと思う。

議題（２）市民公募委員サロンの開催について

＜森川座長＞

・それでは、議題（２）「令和４年度市民公募委員サロンの実施について」、事務局から説明をお願いする。

<事務局>

(資料4「令和4年度市民公募委員サロンについて」説明)

<森川座長>

・補足させていただく。市民協働推進担当は、各附属機関で市民公募委員を登用していくことを推進している部署である。その所管である市民参加推進フォーラムの役割として、附属機関に参画する市民公募委員が発言しやすくなるようにフォローする目的で市民公募委員を対象にサロンを実施してきた。

・マイナーチェンジをしながら15年ほど続いてきた中で、あり方の見直しができないかという提案である。

<乾副座長>

・市民公募委員サロンの目的が様々ある中で、一昨年度にインプットスピーチを担当した際に役に立ったという感想も多くいただいたため、開催する意義は感じている。

・一方で、事前に我々委員の講義を事前収録しておき、それをYouTubeで見えておいてもらうことで目的を達成できるし、市民公募委員の実情の把握としては、アンケートの実施なども考えられる。ただし、市民公募委員同士の交流の機会は残すべきと考える。

<篠原副座長>

・初めて市民公募委員になる人の不安の解消という意味では、市民公募委員サロンの実施の必要性を感じるが、その目的を達成するだけであれば動画の作成・周知でもできるかもしれない。

・市民公募委員同士の交流の場を求めている方が多いことも事実であるため、交流の場は残すべきである。市民公募委員サロンをただ周知するだけではなく、招待状のような形式で案内することで、参加者が増える可能性もある。

<乾副座長>

・市民公募委員サロンも必要であるが、市民公募委員に関心がある人も参加できるようにすることで、実際に市民公募委員が増えることにつながるのではないかと。

<篠原副座長>

・「市民参加の裾野拡大」での高校生への授業の効果として、パブリック・コメントを書いてみることに市民公募委員に応募することまで目指せるとよい。市民参加推進力の指標にしても良いのではないかと。

＜原田委員＞

・イベントは招待の手法が重要だ。参加者が市民公募委員サロンの内容を理解できるように、招待のしかたができるとうい。

＜篠原副座長＞

・できれば市民公募委員だけではなく、その附属機関を所管する所属の職員にも参加してほしいが、ここ数年は参加がない状態である。

＜原田委員＞

・市民公募委員同士の継続的な交流を通じて、市民参加のコアとなる動きをする人が増えていくとうい。

＜森川座長＞

・市民公募委員へ期待されている役割のインプットについては別の方法もあるのではといった意見があった。

＜原田委員＞

・市民公募委員サロンのような企画自体は必要だと感じる。

＜森川座長＞

・市民公募委員への働きかけをやめるといふ話ではなく、目的に対してより効果的な取組を検討しようということである。第2回会議でも引き続き議論していきたい。

4 報告事項

報告事項（1）市民協働担当の事業紹介（まちづくりインターン）

＜事務局＞

（資料5「まちづくりインターンについて」報告）

＜白水委員＞

・興味深い内容である。インターンの受け入れ側のガイドラインもあるとういと思う。せっかく体験をしても受け入れ側とそりが合わずうまくいかなかった経験があるので、準備をしっかりとすることが大切である。

＜乾副座長＞

・このような、地元地域以外に目的ごとにつながっていける取組は良いと思う。しっかりと評価しながら育てていく必要がある。

＜原田委員＞

- ・なぜ55歳からの年齢層をターゲットにするのかというメリットの解像度が粗いと感じる。
- ・体験への参加による感情動線の分析や受け入れ側の多様性も検討してはどうか。

報告事項（２）新たに設置された附属機関等に係る協議結果及び市民参加に関する新しい事業等

＜事務局＞

（資料6「新たに設置された附属機関等に係る協議結果について」、
資料7「市民参加に関する新しい事業や取組」報告）

＜森川座長＞

- ・ 本日の議論は以上となる。それでは、事務局にお返しする。

5 閉会

＜事務局＞

第2回の開催は9月頃を予定している。改めて日程調整させていただくので、ご協力お願いする。以上をもって、市民参加推進フォーラム令和4年度第1回会議を終了する。

本日はありがとうございました。

以上